

勉誠出版

古代交通研究会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: **bfb4f0cea4**

(期限: ~2021年7月31日)

謹啓

薫風の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: **bfb4f0cea4** (期限: ~2021年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・**3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**
(※ 3,000円未満の場合は、300円を頂戴いたします。海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
古代交通研究会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



新刊書籍一覧 注文書

*割引価格は税込です。

ISBN	書名	編著者	出版年	定価 (税込)	割引価格	注文数
◆新刊・近刊・おすすめ書籍						
22289-7	渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	15,400	12,320	
22279-8	古代の日本と東アジア—人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	11,000	8,800	
22278-1	新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	13,200	10,560	
22277-4	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	3,300	2,640	
22280-4	増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	4,180	3,344	
21057-3	大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	4,180	3,344	
22300-9	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	10,450	8,360	
22297-2	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	4,180	3,344	
22140-1	新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2016/2	2,200	1,760	
38000-9	日本語文字論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための17章	加藤重広・岡崎裕剛 編	2021/3	7,700	6,160	
82254-7	パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド版】	菅豊・北條勝貴 編	2021/5	5,280	4,224	
32401-0	古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/6	4,180	3,344	
29612-6	中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/夏	6,600	5,280	
20074-1	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	3,850	3,080	
32501-7	【アジア遊学 255】東アジアにおける知の往還	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	3,080	2,464	
32500-0	【アジア遊学 254】東アジアの歌と文字	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/2	3,080	2,464	
20285-1	【デジタルアーカイブ・ベーシック5】新しい産業創造へ	時象一 監修／久永一郎 責任編集	2021/5	2,750	2,200	
32001-2	首里城を解く—文化財継承のための礎を築く(仮)	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/5	予価 4,180	予価 3,344	
31001-3	中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/6	13,200	10,560	
31002-0	創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	8,800	7,040	
30002-1	書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	17,600	14,080	
◆既刊						
22161-6	日本古代交流史入門	鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市 編	2017/6	4,180	3,344	
22204-0	【石井正敏著作集 4】通史と史料の間で	石井正敏 著／荒野泰典・須田牧子・米谷均 編	2018/8	11,000	8,800	
22203-3	【石井正敏著作集 3】高麗・宋元と日本	石井正敏 著／川越泰博・岡本真・近藤剛 編	2017/9	11,000	8,800	
22202-6	【石井正敏著作集 2】遣唐使から巡礼僧へ	石井正敏 著／村井章介・榎本渉・河内春人 編	2018/7	11,000	8,800	
22201-9	【石井正敏著作集 1】古代の日本列島と東アジア	石井正敏 著／鈴木靖民・赤羽目匡由・浜田久美子 編	2017/9	11,000	8,800	
22160-9	古代日本の東アジア交流史	鈴木靖民 著	2016/11	8,800	7,040	
22060-2	梁職貢図と東部ユーラシア世界	鈴木靖民・金子修一 編	2014/5	9,350	7,480	
22031-2	比較史学への旅—ガリア・ローマから古代日本へ	鈴木靖民 著	2012/4	1,870	1,496	
22016-9	古代東アジアの道路と交通	鈴木靖民・荒井秀規 編	2011/6	6,600	5,280	
10444-5	古代東アジアの仏教と王権—王興寺から飛鳥寺へ	鈴木靖民 編	2010/3	8,800	7,040	
22133-3	「もの」と交易の古代北方史—奈良・平安日本と北海道・アイヌ	葦島栄紀 著	2015/11	7,700	6,160	
22223-1	古代日本と東部ユーラシアの国際関係	廣瀬憲雄 著	2018/10	8,800	7,040	
22115-9	九世紀の来航新羅人と日本列島	鄭淳一 著	2015/3	11,000	8,800	
22247-7	室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる	大内氏歴史文化研究会 編／伊藤幸司 責任編集	2019/7	4,180	3,344	
22126-5	日明関係史研究入門—アジアのなかの遣明船	村井章介 編集代表／橋本雄・伊藤幸司・須田牧子・関周一 編	2015/10	4,180	3,344	
22093-0	入唐僧惠萼と東アジア 附 惠萼関連史料集	田中史生 編	2014/9	5,500	4,400	
21047-4	古代東アジアの仏教交流	佐藤長門 編	2018/5	8,800	7,040	

21003-0	方法としての仏教文化史—ヒト・モノ・イメージの歴史学	中野玄三・加須屋誠・上川通夫 編	2010/11	13,200	10,560	
22205-7	日本古代史の方法と意義	新川登亀男 編	2018/1	15,400	12,320	
21025-2	仏教文明の転回と表現—文字・言語・造形と思想	新川登亀男 編	2015/3	10,780	8,624	
21026-9	仏教文明と世俗秩序—国家・社会・聖地の形成	新川登亀男 編	2015/3	10,780	8,624	
03242-7	日本古代の宗教と伝承	松倉文比古 編	2009/8	10,780	8,624	
22011-4	古代・中世の境界意識と文化交流	竹田和夫 編	2011/6	5,280	4,224	
21041-2	思想史のなかの日本語—訓読・翻訳・国語	中村春作 著	2017/5	3,080	2,464	
22138-8	上代写経識語注釈	上代文献を読む会 編	2016/3	14,300	11,440	
29172-5	平安時代における変体漢文の研究	田中草大 著	2019/2	8,800	7,040	
28017-0	字様の研究—唐代楷書字体規範の成立と展開	西原一幸 著	2015/4	10,780	8,624	
28008-8	漢字字体史研究	石塚晴通 編	2012/11	8,800	7,040	
28029-3	漢字字体史研究 二—字体と漢字情報	石塚晴通 監修／高田智和・馬場基・横山詔一 編	2016/11	8,800	7,040	
29027-8	平安朝漢文学史論考	後藤昭雄 著	2012/4	7,700	6,160	
29039-1	本朝漢詩文資料論	後藤昭雄 著	2012/11	10,780	8,624	
29202-9	和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	16,500	13,200	
22021-3	史料としての『日本書紀』—津田左右吉を読みなおす	新川登亀男・早川万年 編	2011/10	10,780	8,624	
22008-4	律令制国家と古代宮都の形成	石川千恵子 著	2010/11	10,780	8,624	
22145-6	日出づる国と日沈まぬ国—日本・スペイン交流の400年	上川通夫・川畑博昭 編	2016/4	8,250	6,600	
21046-7	南岳衡山と聖徳太子信仰	阿部泰郎・吉原浩人 編	2018/9	7,700	6,160	
21029-0	當麻寺の歴史と信仰	金志虎 著	2015/4	8,800	7,040	
29017-9	古代宮廷文学論—中日文化交流史の視点から	李宇玲 著	2011/5	11,000	8,800	
22163-0	斎王研究の史的展開—伊勢斎宮と賀茂斎院の世界	所京子 著	2017/1	3,960	3,168	
29141-1	後水尾院の研究—研究篇・資料篇・年譜稿	日下幸男 著	2017/3	30,800	24,640	
22122-7	日本古代のみやこを探る	館野和己 編	2015/6	11,000	8,800	
22002-2	ユーラシア古代都市・集落の歴史空間を読む	宇野隆夫 編著	2010/3	4,180	3,344	
29611-9	中国史書入門 現代語訳 隋書	中林史朗・山口諤司 監修／池田雅典・大兼健寛・洲脇武志・田中良明 訳	2017/5	4,620	3,696	
22069-5	宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	4,950	3,960	
29197-8	琉球船漂着者の「問書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	11,000	8,800	
22231-6	由緒・偽文書と地域社会—北河内を中心に	馬部隆弘 著	2019/2	12,100	9,680	
22272-9	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編／国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	8,580	6,864	
22253-8	近世・近現代 文書の保存・管理の歴史	佐藤孝之・三村昌司 編	2019/10	4,950	3,960	
22182-1	知っておきたい歴史の新常識	歴史科学協議会 編	2017/6	3,080	2,464	
22235-4	女性労働の日本史—古代から現代まで	総合女性史学会・辻浩和・長島淳子・石月静恵 編	2019/3	4,180	3,344	
22176-0	紙の日本史—古典と絵巻物が伝える文化遺産	池田寿 著	2017/6	2,640	2,112	
22184-5	古文書料紙論叢	湯山賢一 編	2017/6	18,700	14,960	
20073-4	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	7,700	6,160	
22240-8	書籍文化史料論	鈴木俊幸 著	2019/5	11,000	8,800	
20072-7	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	13,200	10,560	
29036-0	東アジアの漢籍遺産—奈良を中心として	河野貴美子・王勇 編	2012/7	8,800	7,040	
20077-2	中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	16,500	13,200	
23081-6	「本読み」の民俗誌—交叉する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	3,850	3,080	
20067-3	【ライブラリーぶっくす】図書館の日本史	新藤透 著	2019/1	3,960	3,168	
20078-9	アーネスト・サトウと蔵書の行方—『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山騰 著	2020/11	4,620	3,696	
20718-4	【書物学 18】書物学 第18巻 蔵書はめぐる—海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	1,980	1,584	

29491-7	日本「文」学史 第一冊—「文」の環境—「文学」以前	河野貴美子／Wiebke DENECKE／新川登亀男／陣野英則 編	2015/9	4,180	3,344	
29492-4	日本「文」学史 第二冊—「文」と人びと—継承と断絶	河野貴美子／Wiebke DENECKE／新川登亀男／陣野英則／谷口眞子／宗像和重 編	2017/6	4,180	3,344	
29493-1	日本「文」学史 第三冊—「文」から「文学」へ—東アジアの文学を見直す	河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則 編	2019/5	4,180	3,344	
20284-4	【デジタルアーカイブ・ベーシックス4】アートシーンを支える	高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集	2020/12	2,750	2,200	
22680-2	【アジア遊学 214】前近代の日本と東アジア—石井正敏の歴史学	荒野泰典・川越泰博・鈴木靖民・村井章介 編	2017/9	2,640	2,112	
22699-4	【アジア遊学 233】金・女真の歴史とユーラシア東方	古松崇志・臼杵勲・藤原崇人・武田和哉 編	2019/5	3,520	2,816	
22704-5	【アジア遊学 238】ユーラシアの大草原を掘る—草原考古学への道標	草原考古研究会 編	2019/9	3,520	2,816	
22708-3	【アジア遊学 242】中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	3,080	2,464	
22710-6	【アジア遊学 244】前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	3,520	2,816	
22715-1	【アジア遊学 249】漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界	川原秀城 編	2020/7	3,080	2,464	
22716-8	【アジア遊学 250】酔いの文化史—儀礼から病まで	伊藤信博 編	2020/8	3,080	2,464	
22717-5	【アジア遊学 251】仏教の東漸と西漸	荒見泰史 編	2020/9	3,080	2,464	
22718-2	【アジア遊学 252】中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をとおして	永井晋 編	2020/9	3,080	2,464	
22719-9	【アジア遊学 253】ポストコロナ時代の東アジア—新しい世界の国家・宗教・日常	玄武岩・藤野陽平 編	2020/10	3,080	2,464	

お申し込みは

Web Site◎<https://bensei.jp>

FAX◎03-5215-9025

E-mail◎info@bensei.jp

勉誠出版

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2丁目18-4
TEL 03-5215-9021

<p>ご氏名</p>	<p>備考欄</p> <p>*公費・私費の区別をお知らせください</p> <p>*公費の場合には、必要書類・宛名・日付の有無をお書きください</p>
<p>ご住所</p>	
<p>電話番号</p>	

関連書籍のご案内

* 表示価格には別途消費税がかかります。
* ISBN は 978-4-585 を省略しています。

歴史

渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民[編]

冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有様などが明らかになってきた。30年に亘る国際共同研究より得た知見から最新の成果を提示する画期的論集。

本体14,000円(+税)・B5判上製・496頁・ISBN22289-7・2021年2月刊行

詳細チラシも
ご覧ください



古代の日本と東アジア 人とモノの交流史

鈴木靖民[著]

東アジア諸国は如何に形成され、展開したのか。文献資料、最新の考古学的成果を博搜し、地政学、ヒト・モノ・文化の交流の視点より日本および東アジアの歴史的展開を浮き彫りにする、長年にわたり東アジア古代史研究を牽引する碩学による最新論集。

本体10,000円(+税)・A5判上製・472頁・ISBN22279-8・2020年7月刊行

オススメ

詳細チラシも
ご覧ください



新羅中古期の史的研究

武田幸男[著]

とくに飛躍的な発展を見せた新羅中古期(514~654年)を中心に考究。陸統と発見された各種の新羅碑文を諸史料とともに精緻に読み込むことにより、当時の激動する東アジアの国際関係における、新羅の史実態とその展開過程を明らかにする。

本体12,000円(+税)・A5判上製・568頁・ISBN22278-1・2020年7月刊行

オススメ

詳細チラシも
ご覧ください



古文書への招待

日本古文書学会[編]

古代から近代にわたる全45点の古文書を丹念に読み解くことで、古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、書かれた背景をなす歴史的事件を解明。カラー図版をふんだんに配し、全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した恰好の古文書入門!

本体3,000円(+税)・B5判並製・176頁・ISBN22277-4・2021年1月刊行

詳細チラシも
ご覧ください



増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう

秋山哲雄・田中大喜・野口華世[編]

歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介。歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。2014年5月に刊行の『日本中世史入門—論文を書こう』を大幅に増補改訂!

本体3,800円(+税)・A5判並製・608頁・ISBN22280-4・2021年2月刊行

詳細チラシも
ご覧ください



大嘗祭 隠された古層

工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎[編]

アニミズムの原理をおおもととする大嘗祭を、どのように今の時代の価値観の中に位置づけたらよいか。大嘗祭の本質の側から、今とこれからの時代の大嘗祭、ひいては天皇制のあり方を考えるための視座を与える一冊。

本体3,800円(+税)・四六判並製・296頁・ISBN21057-3・2021年1月刊行

詳細チラシも
ご覧ください



中世の博多とアジア

伊藤幸司[著]

中世の博多を特徴づける「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

本体9,500円(+税)・A5判上製・564頁・ISBN22300-9・2021年2月刊行



鷹狩の日本史

福田千鶴・武井弘一〔編〕

五世紀の古墳時代から江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、鷹狩は権力と深く結びつきながら日本列島において連綿と続けられてきた。日本史を貫く重要な要素でありながら、等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

本体 3,800円(+税)・A5判並製・368頁・ISBN22297-2・2021年2月刊行

詳細チラシも
ご覧ください



新装版 唐物と東アジア 舶載品をめぐる文化交流史

河添房江・皆川雅樹〔編〕

好評につき重版!

唐物交易の時代的変遷とその実態からみた異国との交流史、唐物を結節点とする漢と和の関係性への分析、人物とその権力の表象としての唐物の関係性について美術品や歴史資料のみならず、文学資料も用いて明らかにする。

本体 2,000円(+税)・A5判並製・208頁・ISBN22140-1・2016年2月刊行



日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章

加藤重広・岡墻裕剛〔編〕

詳細チラシも
ご覧ください

ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。古代から現代までを視野に「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、日本語における「文字論」の豊穡な世界を示す初めての一冊。

本体 7,000円(+税)・A5判並製・432頁・ISBN38000-9・2021年3月刊行



パブリック・ヒストリー入門

【オンデマンド新版】

菅豊・北條勝貴〔編〕

好評につき重版!

詳細チラシも
ご覧ください

歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える日本初の概説書!

本体 4,800円(+税)・A5判並製・カラー 8頁+本文 504頁・ISBN82254-7・2021年5月刊行



中国史書入門 現代語訳 北齊書

氣賀澤保規〔監修〕／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之〔訳〕

詳細チラシも
ご覧ください

異民族が中原に進出し、群雄割拠した南北朝時代。王朝が成立しては滅亡を繰り返した時代。日本でも有名な雅楽「蘭陵王入陣曲」、その蘭陵王・高長恭が活躍した北齊の正史『北齊書』を本邦初現代語訳!原文と現代語訳を対照できる。

本体 6,000円(+税)・A5判並製・680頁・ISBN29612-6・2021年夏刊行



古文書研究 第91号

日本古文書学会〔編〕

近刊

詳細チラシも
ご覧ください

古文書学の最前線を伝える学術雑誌。論文、史料紹介・追悼文・古文書めぐり、随筆、書評と紹介などを収録。【執筆者】佐藤亜莉華・松井直人・村上絢一・金子修一・山内謙・遠藤珠紀・丸島和洋・桐田貴史・湯川敏治・木下昌規・荊木美行・武井紀子・徳竹亜紀子・近藤好和・松本郁代・高銀美・黒嶋敏・田部井隼人・福井淳・佐々木千恵・荒木和憲古

本体 3,800円(+税)・B5判並製・162頁・ISBN32401-0・2021年6月刊行



日本の図書館建築 建築からプロジェクトへ

五十嵐太郎・李明喜〔編〕

「箱モノ」から、コミュニケーションなどを重視した「有機的なモノ」へと変化を遂げた日本の公共図書館。1950年代から、2020年代の現在まで、全国各地の特色ある公共図書館を紹介し、図書館建築の歴史的流れを追った一冊。カラー図版 200点以上!

本体 3,500円(+税)・A5判並製・336頁・ISBN20074-1・2021年3月刊行



東アジアにおける知の往還 【アジア遊学255】

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院〔共編〕

詳細チラシも
ご覧ください

第一章「書物と文化」、第二章「記録と記憶」、第三章「都市という舞台」の構成により、文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

本体 2,800円(+税)・A5判並製・200頁・ISBN32501-7・2021年3月刊行



東アジアの歌と文字 【アジア遊学254】

真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉〔編〕

東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料・伝承記録を、文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

本体 2,800円(+税)・A5判並製・208頁・ISBN32500-0・2021年3月刊行



新しい産業創造へ 【デジタルアーカイブ・ベーシック5】

時実象一〔監修〕／久永一郎〔責任編集〕

デジタルアーカイブが産業の未来を切り拓く！日本の企業はデジタルアーカイブをどのようにに活用し、それをビジネスに昇華しているのか？「デジタルアーカイブ・ベーシック」全5巻、ここに完結！

本体 2,500円(+税)・A5判並製・208頁・ISBN20285-1・2021年5月刊行



首里城を解く 文化財継承のための礎を築く(仮)

高良倉吉〔監修〕／島村幸一〔編〕

近刊

2019年(令和元年)10月31日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

予価本体 3,800円(+税)・A5判並製・320頁・ISBN32001-2・2021年5月刊行

NO IMAGE

中世寺院の仏法と社会

永村眞〔編〕

近刊

詳細チラシも
ご覧ください

寺院に伝持された史料群を読み解くことにより、中世において寺院や仏法が果たした役割を描き出し、寺院社会の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

本体 12,000円(+税)・A5判上製・544頁・ISBN31001-3・2021年6月

NO IMAGE

創られた由緒 近世大和国諸社と在地神道家

向村九音〔著〕

近刊

詳細チラシも
ご覧ください

大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝の創出を企図した彼が、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出し、またその言説が、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのかを探る。

本体 8,000円(+税)・A5判上製・288頁・ISBN31002-0・2021年6月刊行

NO IMAGE

書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史

藤本幸夫〔編〕

近刊

詳細チラシも
ご覧ください

流通・読者・版権・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する35名の珠玉の執筆者の知見を集結、394点に及ぶ図版資料を収載した日中韓の知の世界を彩る書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

本体 16,000円(+税)・B5判上製・896頁・ISBN30002-1・2021年6月刊行

NO IMAGE

渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民〔編〕

本体14,000円(+税)
B5判上製カバー装・496頁
2021年1月刊行
ISBN978-4-585-22289-7・C3020

考古学・文献史学より「海東の盛国」の実態を
明らかにする画期的論集

7世紀末から10世紀前半、中国東北部・ロシア沿海地方・朝鮮半島北部にまたがり展開した渤海国。唐や日本など周辺諸国との交易で栄え、当時の東アジア情勢において「海東の盛国」と称されるほどの古代国家であったが、資・史的制約により、長らくその具体的な様相を詳らかに把握することが困難であった。しかし、冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有り様などが明らかになってきた。30年に亘る考古学・文献史学の国際共同研究より得た知見から最新の研究成果を提示する画期的論集。

【目次】

序言●清水信行・鈴木靖民

第I部●渤海の統治制度と国際交流

第II部●クラスキノ古城の機能と性格

第III部●沿海地方渤海遺跡の出土遺物

あとがき●清水信行

執筆者一覧／索引(人名索引・地名索引・事項索引)

※詳細目次は裏面をご覧ください。

【執筆者一覧(掲載順)】

清水信行

鈴木靖民

金子修一

浜田久美子

赤羽目匡由

澤本光弘

宋基豪

田村晃一

小嶋芳孝

A.L.イヴリエフ

V.I.ボルディン

酒寄雅志

中澤寛将

E.I.ゲルマン

N.V.レシチェンコ

[編者紹介]

清水信行(しみず・のぶゆき)

1949年生まれ。助東洋文庫研究員(非常勤)、青山学院大学文学部名誉教授。専門は日本考古学。

著書に『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』(編著、青山学院大学清水研究室、2013年)、『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』(編著、青山学院大学清水研究室、2017年)、論文に「韓国論山郡開泰寺出土銘文瓦についての一考察」(『日本考古学』五、日本考古学協会、1998年)、「渤海上京龍泉府出土の平瓦・丸瓦」(田村晃一編『東アジアの都城と渤海』東洋文庫論叢第64、助東洋文庫、2005年)などがある。

鈴木靖民(すずき・やすたみ)

1941年生まれ。横浜市歴史博物館館長、淑徳大学客員教授、國學院大学名誉教授。専門は日本古代史・東アジア古代史。

著書に『日本の古代国家形成と東アジア』(吉川弘文館、2011年)、『倭国史の展開と東アジア』(岩波書店、2012年)、『比較史学への旅—ガリア・ローマから古代日本へ』(勉誠出版、2012年)、『梁職貢図と東部ユーラシア世界』(編著、勉誠出版、2014年)、『日本古代の周縁史』(岩波書店、2014年)、『相模の古代史』(高志書院、2014年)、『古代日本の東アジア交流史』(勉誠出版、2016年)、『日本古代交流史入門』(編著、勉誠出版、2017年)、『古代の日本と東アジア 人とモノの交流史』(勉誠出版、2020年)などがある。

書名	部数
渤海の古城と国際交流 清水信行・鈴木靖民〔編〕	部
ご送付先住所(通信欄)	

本体14,000円(+税)
B5判上製カバー装・496頁
2021年1月刊行
ISBN978-4-585-22289-7・C3020

【目次】

序言●清水信行・鈴木靖民

第I部●渤海の統治制度と国際交流

交易の視角からみた渤海国●鈴木靖民

渤海をめぐる唐代の国際関係●金子修一

渤海の外交文書——王啓を中心に●浜田久美子

渤海の中央官制と地方制度●赤羽目匡由

燕雲地域の漢人と滅亡以降の渤海人——〈陳万墓誌〉〈耶律宗福墓誌〉〈高爲裘墓誌〉など遼代石刻をてがかりに●澤本光弘

六頂山古墳群の性格と渤海建国集団●宋基豪(清水信行訳)

[研究ノート]渤海墓研究の検討——鄭永振の研究を中心に●清水信行

渤海王陵・貴族墓論(その2)●田村晃一

第II部●クラスキノ古城の機能と性格

渤海時代のロシア沿海地方●小嶋芳孝

考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格●田村晃一

クラスキノ古城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究●A.L.イヴリエフ・V.I.ボルディン(清水信行訳)

沿海地方クラスキノ古城——歴史から見た特徴と機能●A.L.イヴリエフ(垣内あと訳)

Nature and function of Kraskino walled town in Primorye region through the historical viewpoint●A.L.Ivliev (translation by A.L.Ivliev)

渤海平地域とクラスキノ城跡——ポシエト湾周辺遺跡群の評価●小嶋芳孝

クラスキノ古城と塩州●酒寄雅志

[コラム]クラスキノ古城発掘調査30年とロ・日共同調査●V.I.ボルディン(垣内あと訳)

Retrospective glance on 30 years of excavation of Kraskino ancient town and beginning of cooperation with Japanese archaeologists

●V.Boldin(translation by A.L.Ivliev)

クラスキノ古城発掘調査記●清水信行

第III部●沿海地方渤海遺跡の出土遺物

クラスキノ城址出土土器の特質とその意義●中澤寛将

クラスキノ古城の土器●E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

Pottery of Kraskinskoye walled town●E.I.Gelman(translation by E.I.Gelman)

沿海州渤海遺跡出土瓦についての一考察●清水信行

クラスキノ古城における特殊な遺構——瓦の側壁を持つ地下式堅穴状遺構

●V.I.ボルディン・E.I.ゲルマン・N.V.レシチェンコ・A.L.イヴリエフ(清水信行訳)

渤海の金属製カンザシ●小嶋芳孝

渤海・女真代城郭城門の研究●E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

あとがき●清水信行

執筆者一覧

索引(人名・機関名索引/地名・史跡名索引/事項名索引(国家名・民族名含む))

古代の日本と 東アジア 人とモノの交流史

鈴木靖民 [著]

東アジアの構造はいかに形成され、
展開したのか――

文献資料、最新の考古学的成果を博搜し、
地政学的そしてヒト・モノ・文化の交流の視点より
一世紀から十世紀におよぶ
日本および東アジアの歴史的展開を
浮き彫りにする。
長年にわたり東アジア古代史研究を牽引する
碩学による最新論集。

〔著者プロフィール〕……………

鈴木靖民 (すずき やすたみ)

横浜市歴史博物館館長、國學院大学名誉教授、淑徳大学人文学部客員教授。

文学博士。専門は日本古代史・東アジア古代史。

主著に『比較史学への旅―ガリア・ローマから古代日本へ』(勉誠出版、二〇二二年)、『梁
職貢図と東部ユーラシア世界』(編著、勉誠出版、二〇一四年)、『日本古代の周縁史』(岩
波書店、二〇一四年)、『相模の古代史』(高志書院、二〇一四年)、『古代日本の東アジア
交流史』(勉誠出版、二〇一六年)、『日本古代交流史入門』(共編著、勉誠出版、二〇一七
年)などがある。

〔目次〕……………

はじめに

I 王権の始原・交易の力

- 1 加耶史の展開と倭
- 2 加耶の形成と対外交流――一〜三世紀
- 3 倭国の形成と加耶――四〜五世紀
- 4 加耶文化の北方的要素
- 5 弥生後期、根塚遺跡と東アジア

II 中心化する周辺・あらがう周辺

- 1 広開土王碑にみえる「倭」
- 2 五世紀、高句麗の王陵・祭祀・王統譜
――集安高句麗碑小考
- 3 五世紀の倭国と東アジア
- 4 反正天皇(珍)の人物像――記紀、宋書を通して

III 外交の形・移動する文化

- 1 新羅の倭典と上表
- 2 半跏思惟仏像をめぐる倭と百濟・新羅――七世紀
- 3 古代日本の文化形成に寄与した朝鮮の人びと
――七世紀を中心として
- 4 古代日本列島の遠距離交流と文化伝播

IV 交流する国家・媒介する中国

- 1 日本古代国家のなりたちと東アジアの交流
- 2 『古事記』『日本書紀』にみえる女性像
――古代国家と周縁
- 3 渤海国の首領と交易
――史的特質をめぐって
- 4 シルクロード・東ユーラシア世界と古代日本

おわりに
索引

本体 **10,000**円(+税)

A5 判上製カバー装・472 頁
ISBN 978-4-585-22279-8 C3020
2020 年 7 月刊行

書名	部数
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史 鈴木靖民 [著]	部
本体10,000円(+税) A5判上製カバー装・472頁 ISBN978-4-585-22279-8 C3020 2020年7月刊行	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

新羅中古期の史的的研究

武田幸男 [著]

【目次】

序言

第一編 新羅官位制の研究

第一章 新羅・法興王代の律令と衣冠制

第二章 金石文資料からみた新羅官位制

第三章 新羅官位制の成立

第四章 新羅官位制の成立に関する覚書

第二編 新羅「教事碑」の研究

第一章 浦項・中城里碑の研究

第二章 迎日・冷水里碑の立碑年次と「王教」主体

第三章 蔚珍・鳳坪碑の「教事」主体と刑罰「執行」

第四章 真興王代における新羅の赤城経営

第五章 丹陽・赤城碑の「教事」主体と「教事」内容

第三編 蔚州書石の研究

第一章 顔のない人物像の彼方

第二章 「乙巳年原銘」と「己未年追銘」の研究

蔚州書石谷における新羅・葛文王一族

蔚州書石「癸巳六月廿二日銘」の研究

新羅・沙喙部集団の書石谷行

第四編 新羅支配体制の研究

第一章 新羅六部とその展開

第二章 新羅の法幢軍団とその展開

第三章 新羅の二人派遣官と外司正

新羅地方檢察官の系譜

第四章 私の新羅史探求の旅

新羅の国号・王号・王権とタロの系譜

あとがき

索引

【著者プロフィール】

武田幸男(ただだ・ゆきお)

東京大学名誉教授。専門は朝鮮前近代史。

著書に『高麗史日本伝』上・下(岩波書店、二〇〇五年)、『広開土王碑との対話』(白帝社、二〇〇七年)、『広開土王碑墨本の研究』(吉川弘文館、二〇〇九年)などがある。

古代東アジアにおける国際関係を考える上で、朝鮮半島に展開した各国の動向は見逃すことのできない大きなテーマである。ただし、残存史料が断片的であるなど困難も多く、その研究構築は容易ではない。本書は、日本とも関連の深い、朝鮮半島の古代史で、主導的役割を担った新羅について、とくに飛躍的な発展を見せた新羅中古期(五一四〜六五四年)を中心に考究。近年、陸続と発見された各種の新羅碑文を、諸史料とともに精緻に読み込むことにより、当時の激動する東アジアの国際関係における、新羅の史の実態とその展開過程を明らかにする。金石文・文献史料双方に精通し、朝鮮古代史の先達として活躍する泰斗による待望の一書。

本体 **12,000**円(+税)

A5 判上製カバー装・568頁
ISBN 978-4-585-22278-1 C3022
2020年7月刊行

書名	部数
新羅中古期の史的的研究 武田幸男 [著]	本体 12,000 円(+税) A5判上製カバー装・568頁 ISBN978-4-585-22278-1 C3022 2020年7月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

日本古文書学会 〈編〉

古文書への招待

過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……

過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？

古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。

また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、

全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した

恰好の古文書入門！

収録

①かたち

- 長屋王家符
- 他田奉部直神護解
- 太政官符
- 源頼朝寄進状
- 伊賀国黒田莊悪党人縁者交名
- 武雄社大宮司都々丸代藤原通厚軍忠状
- 足利義満書状案
- 足利義教自筆御内書
- 東寺款状
- 羽柴秀吉制札
- 徳川家康起請文
- 豊臣秀吉朱印状
- 開帳差免帳
- 交代寄合山名義蕃書置

②ひと

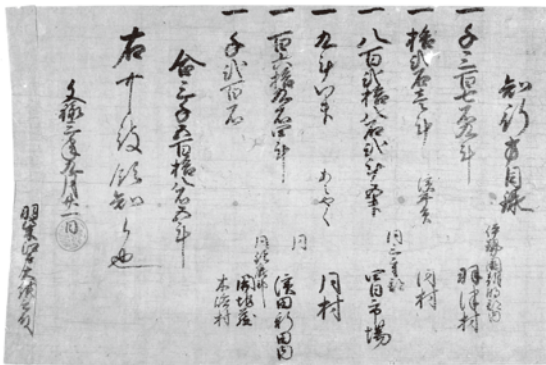
- 太政官符享
- 源実朝袖判下文
- 右馬允康経書状
- 某書状案断簡
- 護良親王令旨
- 大蔵大輔某奉書
- 足利尊氏御判御教書
- 征西將軍宮令旨
- 今川了俊書下
- 栖雲斎威阿書状
- 白川義親書状
- 丹羽長秀書状
- 毛利輝元起請文案
- 黒田如水(孝高)書状
- 五箇条の御誓文
- 北条政子書状
- 東大寺大勸進重源自筆書状
- 高麗渤海関係某書状
- 藤原為家讓状
- 足利尊氏御判御教書
- 沙弥惠尊(小田孝朝)書状
- 足利義隆御内書
- 武田信玄自筆願文
- 織田信長印判状
- 豊臣秀吉知行方目錄
- 三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文
- 薩長同盟覚書裏書(坂本龍馬筆)

本体二、〇〇〇円(+税)

B5判並製カバー装・二七六頁(フルカラー)

二〇二一年一月刊行

ISBN978-4-585-22277-4 C1021



豊臣秀吉知行方目錄

關地蔵院所藏

[画像提供・亀山市歴史博物館]

書名	部数
古文書への招待	
日本古文書学会 [編]	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体3,000円(+税)

B5判並製カバー装・176頁
2021年1月刊行
ISBN978-4-585-22277-4 C1021

増補改訂新版

日本中世史入門 論文を書こう

本体二、八〇〇円(+税)
A5判並製カバー装
六〇八頁・二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

国士館大学文学部教授

秋山哲雄

国立歴史民俗博物館・
総合研究大学院大学准教授

田中大喜

共愛学園前橋国際大学教授

野口華世

〈編〉

2014年刊行の
日本中世史入門
好評につき、
大幅増補・改訂して
近日刊行!
240頁増!

歴史を学び、 考えるために

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、
現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。
そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。
それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか――
歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を
日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、
歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

卒論・修論の執筆、指導にも最適!

まえがき：秋山哲雄・田中大喜・野口華世

I 「歴史学」を学ぶということ

II 論文を書こう――歴史学研究の方法を学ぶ

III 日本中世史研究の現在

中世撰関家論●中世的権門としての撰関家：高松百香
院政論●政治史と家族史の融合：佐伯智広
平家政権論●平家政権論の軌跡とこれから：前田英之

中世前期国家財政論●税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために：守田逸人

荘園史研究●中世天皇家の荘園の意味を考える：野口華世

中世武士論●中世武士のとりえ方はどう変わったか：伊藤瑠美

鎌倉幕府論●中世の特質を明らかにする：秋山哲雄

鎌倉幕府武士論●鎌倉幕府を支える様々な人々：赤澤春彦

鎌倉期守護論●幕府による全国統治の実態に迫る：西田友広

中世前期法制史研究●鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし：木下竜馬

鎌倉幕府御家人制論●鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したものは：清水 亮

中世武士団論●中世の武士と社会の特質を考える：田中大喜

朝廷下級官人論●朝廷を支える官僚システム：遠藤珠紀

室町殿論●新たな権力者像の「発見」：大田壮一郎

室町期守護論●室町期守護論の「これまで」と「これから」：大藪 海

中世後期法制史研究●室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質：松園潤朗

中世寺院史●中世寺院と顕密体制を考える：石田浩子

中世村落・環境史●生活の舞台としての村落をどうとらえるか：高木徳郎

中世交通・流通論●水陸のみちを考える：藤本頼人

中世都市論●都市の輪郭について考える：三枝暁子

中世身分論●身分と集団から中世社会を考える：辻 浩和

中世東国史研究●地域史と国家史のあいだで：植田真平

中世日本・東アジア交流史●外国との関わりを考える：伊川健二

中世日本境界領域論●東アジア交流の玄関口としての境界領域：荒木和憲

古文書学を学ぶ人のために●史料論の時代における古文書学の可能性：佐藤雄基

中世絵画史料論●絵画にかくされたもうひとつの日本文化：黒田 智

中世考古資料論●中世考古学の方法：村木二郎

執筆者一覧
あとがき：増補改訂版の刊行に寄せて：秋山哲雄・田中大喜・野口華世
研究概念・用語索引

書名	部数
増補改訂版 日本中世史入門——論文を書こう 秋山哲雄・田中大喜・野口華世〈編〉	本体3,800円(+税) A5判並製カバー装・608頁 2021年2月刊行 978-4-585-22280-4 C0021
ご送付先ご住所（通信欄）	

「Ⅱ 論文を書く」では、論文執筆から投稿までのプロセスをフローチャートでわかりやすく紹介。各段階で押さえておきたいポイントはQ&A方式で詳しく説明。

● 頁見本

4 構成を考える

はじめに

論文を書くという作業は、これまで進めてきた研究を文章としてまとめて新見を学界に問い、学問の進展に寄与することである。それだけに論文は、すぐに書けるものではない。ねばりつ参考文献や史料と向き合ってテーマを絞り、どうすれば自分の主張を説得力のあるものにできるかを熟考して構成を考え、史料を深く読み込んで我田引水とならないよう本論を慎重に書き進め、読者に自分の意図が伝わるよう丁寧な文章を推敲し、全体に矛盾がないかを広い視野で見直し、ようやく書き上がるものがある。おまかなフローチャートを左に示したので、まずはこれを参照しながら、後につづく項を読み進めていってください。迷ってもそれぞれの項目を何度でも確認していけば、必ずや納得できる論文書き上げることができるはずである。なお、論文を書く方法は幾通りもあるだろうし、人によっても異なる。ここで示すのは、その中の一般的な書き方のひとつであることを断っておく。

【論文の書き方フローチャート】

① おおまかなテーマを考える (1 参照)

② 参考文献を探して読む・史料を探して読む (2・3 参照)

③ テーマを絞り込む (1 参照)

④ 参考文献を探して読む・史料を探して読む (2・3 参照)

⑤ テーマを確定する (1・3 参照)

⑥ 構成を考える

⑦ 「はじめに」を書く

⑧ 本論を書く

⑨ 「おわりに」を書く

⑩ 結論を明示して「はじめに」に示した課題への回答を記す (4・6 参照)

⑪ 他人の説を採用しない批判する (4・6 参照)

⑫ 根拠となる史料を明示する (5・6 参照)

⑬ 「はじめに」で示した課題と組織する場合に⑦にもとづく

⑭ ⑩ 推敲する (6 参照)

⑮ ⑪ 完成!

⑯ ⑫ 学術雑誌に掲載する (7 参照)

⑰ 書き直しを指示される

⑱ 書き直す

⑲ ⑫ 学術雑誌に掲載される

● 頁見本

Q1 書く前にまずやることは?

1でテーマを決め、2・3でそのテーマに関する参考文献や史料を読んだら、ようやく論文を執筆できる段階となる。論文を書く前には、まず全体の目次を考えることをお勧めする。目次は、当然のことながら、書き進めていくうちに変わることもあるが、最初におおまかな目次(「流れ」)を考えておくと、論文の筋道が整理できて、わかりやすい論文を書くことができる。目次は、「はじめに」本論「おわりに」という構成をとることが多い。本論は、3章から4章の構成にする。書きやすいだろう。また、それぞれの章の中を、さらにいくつかの節にわけると、読む側・書く側の双方にとって、わかりやすい内容になる。たとえば、【例1】〜【例3】のような目次が考えられ、すでに読んだ参考文献や史料を、どの章や節で引用するかを考えながら目次をふくらませていけば、論文の形に近づいていくはずである。まずは目次をしつくりと考えよう。

【例1】 武士団結合の複合的展開と公武権力
はじめに
第一章 族縁的結合と地域的結合
第二章 鎌倉期武士団の一族結合
第三章 本領の形成と地域的結合
第四章 町場と地域的結合
第五章 小括
第六章 一族結合と惣領制
第七章 惣領制の形成と展開
第八章 家督と惣領
第九章 小括
第十章 南北朝・室町期の武士団と荘園制
第十一章 南北朝内乱と領地の所領の形成
第十二章 室町幕府の戦争Ⅱ荘園政策と武士団
第十三章 室町期の荘園制と惣領制
第十四章 小括
おわりに

【例2】 鎌倉と鎌倉幕府
はじめに
第一章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」過程
第二章 鎌倉幕府の成立と鎌倉
第三章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」
第四章 小括
第五章 鎌倉の求心力
第六章 裁許の求心力
第七章 経済の求心力
第八章 宗教の求心力
第九章 小括
第十章 鎌倉の多核化
第十一章 将軍求心力の変化
第十二章 鎌倉の「地子」と「地主」
第十三章 鎌倉の「宿所」
第十四章 小括
おわりに

【例3】 中世前期公家社会の変容
はじめに
第一章 女院領とその意義
第二章 女院領の成立
第三章 御願寺の継承とその意義
第四章 小括
第五章 鎌倉前期の知行者と後鳥羽院
第六章 鎌倉期の安楽門院による継承
第七章 後鳥羽院による知行者の改善
第八章 知行者改善の要因とその影響
第九章 承久の乱後の知行者の論理
第十章 小括
第十一章 安楽寿院の再編
第十二章 鎌倉後期の知行者の再編
第十三章 魚山院による知行者の再編
第十四章 知行者再編の意味
第十五章 安楽寿院知行者のその後
第十六章 知行者の家領形成
第十七章 小括
おわりに

Q2 「はじめに」で書くべきことは?

「はじめに」では、論文で扱うテーマに関する研究史の整理を行う。研究史整理を通して、現時点までに明らかにされてきたこと、そして現時点で課題として残されていることを、自分なりにまとめることになる。これによって、論文の課題を明示することができるのである。研究史整理は、論文を書くにあたってのもっとも重要な出発点であり、準備は入念に行わなければならない。準備の際に必要な参考文献・先行研究や史料の収集については、2・3を参照のこと。

「はじめに」で提示した課題が、結論と組織することがあれば、結論にあわせて「はじめに」を書き直す。ただし、最終的に書き直すことになっても、論文を書いている最中に方向性を見失わないように、まずは「はじめに」から書きはじめた方が無難だろう。なお、これまで研究がなされていないテーマで論文を書くこともあるだろう。その場合には、研究史がないことを指摘したうえで、なぜそのテーマを研究すべきなのか、その意義を記そう。

7つの段階に対応した43のQ&A

1 テーマを決める

- Q1: レポートと論文の違いは?
- Q2: テーマを決める要素は?
- Q3: 論文にふさわしくないテーマは?
- Q4: 興味を持つていることが絞れないときは?
- Q5: 主要な通史類、講座類は?
- Q6: 最近の研究動向を知るには?
- Q7: テーマを決める方法は?

2 参考文献を読む

- Q1: 参考文献とは?
- Q2: ふざわい書籍とは?
- Q3: 書籍を探すには?
- Q4: 研究論文とは?
- Q5: 学術雑誌とは?
- Q6: 研究論文を探すには?
- Q7: 研究論文を入手するには?
- Q8: 参考文献の読み方は?
- Q9: 参考文献を読むときに気をつけることは?
- Q10: 参考文献を活用するには?

3 史料を読む

- Q1: 史料とは?
- Q2: 古文書を探すには?
- Q3: 古記録や編纂物を探すには?
- Q4: 地域の史料を集めるには?
- Q5: 史料を読む前にすることは?
- Q6: 史料を読むには?
- Q7: 史料を読むときに気をつけることは?
- Q8: 参考文献と史料を読んだ後は?

4 構成を考える

- Q1: 書く前にまずやることは?
- Q2: 「はじめに」で書くべきことは?
- Q3: 本論で目指すことは?
- Q4: 史料などを適切に引用するには?
- Q5: 史料を引用する場合の注のつけ方は?
- Q6: 「おわりに」で注意すべきことは?

5 注(註)をつける／史料を引用する

- Q1: なぜ注をつけるのか?
- Q2: どのようなときに注をつけるのか?
- Q3: 先行研究を引用する場合の注のつけ方は?
- Q4: 史料を引用する場合の注のつけ方は?
- Q5: 史料を引用する際に注意すべきことは?
- Q6: 一次史料と二次史料の違いは?

6 推敲する

- Q1: 推敲するとは?
- Q2: 文章を見直すときのポイントは? — その1 字句など —
- Q3: 文章を見直すときのポイントは? — その2 文章・段落の長さ —
- Q4: 誤解されない文章を書くには?

7 投稿しよう

- Q1: どうやって投稿するのか?
- Q2: 投稿すれば必ず掲載されるのか?

中世の博多とアジア

伊藤幸司〔著〕



中世日本における 国際交流の最前線

中世日本においてアジアへの窓口であり、アジアにおける日本への窓口でもあった博多。アジアの海商が来航する博多での貿易活動は、民間取引や国家外交など、

多様で広範な国際交流のなかで展開されていた。

また、博多で展開する宗教勢力は、こうした国際交流と密接不可分の状況で展開し、その影響はネットワークを通じて広く列島の各所にも及んでいた。

中世の博多をもつとも特徴付ける要素である「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。

国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

【著者紹介】

伊藤幸司（いとうこうじ）

九州大学大学院比較社会文化研究院教授。

専門は日本中世史・東アジア交流史。

著書に『中世日本の外交と禅宗』（吉川弘文館、二〇〇二年）、『日明関係史研究入門』（共編著、勉誠出版、二〇一五年）、『室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる』（責任編集、大内氏歴史文化研究会編、勉誠出版、二〇一九年）などがある。

【目次】

カラー口絵

凡例

序章 中世博多研究の潮流

第一部◎貿易都市博多

第一章 港町複合体としての中世博多湾

第二章 中世博多の海商と海の道——南島路をめぐる

第三章 日朝関係における偽使の時代——博多商人の視点から

第四章 中世後期の博多とアジア

第二部◎宗教都市博多

第五章 宗教都市博多の中世——寺社を中心として

第六章 博多と鎌倉——鎌倉時代の日本禅宗界

第七章 首羅山・油山と東アジア

第八章 中世の崇福寺をめぐる

第九章 博多聖福寺と臨済宗幻住派

第三部◎博多の史料研究

第一〇章 聖福寺古図と承天寺古図——描かれた戦国時代の博多

第十一章 湖心碩鼎『願賢録』について

終章 アジアのなかの港市博多

史料編◎湖心碩鼎『願賢録』

凡例

『願賢録』乾

『願賢録』坤

初出一覧

研究費使用一覧

あとがき

掲載図表一覧

参考文献一覧

索引

本体九、五〇〇円（＋税）

A5判・上製カバー装

口絵四頁＋本文五六〇頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-22300-9 C3020

書名	中世の博多とアジア	著者	伊藤幸司〔著〕	部数	部
価格	本体9,500円（＋税）				
	A5判・上製カバー装 カラー口絵4頁＋本文560頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22300-9 C3020				
ご注文先ご住所（通信欄）					

たかがり

鷹狩の日本史

福田千鶴・武井弘一 [編]

知られざるヒトとタカの関係史

飼い慣らした鷹を自在に操り、獲物を捕らえる狩猟、鷹狩。

五世紀の古墳時代から

江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、

鷹狩は権力と深く結びつきながら

日本列島において連綿と続けられてきた。

そこには、日本の風土や社会のなかで

地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等にあわせて

独自に発展してきた固有の歴史が存在する。

日本史を貫く重要な要素でありながら、

等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、

新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

編者プロフィール

福田千鶴 ふくだちづる

一九六一年生まれ。九州大学基幹教育院教授。鷹鷹場・環境研究会代表。専門は日本近世史。著書に『幕藩制の秩序と御家騒動』(校倉書房、一九九九年)、『徳川綱吉』(山川出版社、二〇一〇年)、『近世武家社会の奥向構造』(吉川弘文館、二〇一八年)、『城割の作法』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

武井弘一 (たけいこういち)

一九七一年生まれ。琉球大学国際地域創造学部准教授。鷹鷹場・環境研究会副代表。専門は日本近世史。著書に『鉄砲を手放さなかった百姓たち』(朝日新聞出版、二〇一〇年)、『江戸日本の転換点』(NHK出版、二〇一五年)、『茶と琉球人』(岩波書店、二〇一八年)などがある。



目次

第1部 古代から近世までの通史的展開

- 第1章 古代日本の鷹狩◎森田喜久男
- 第2章 中世日本の鷹狩◎中澤克昭
- 第3章 近世日本の鷹狩◎武井弘一
- 【ラム1】鷹・馬・犬からみた生類憐みの令◎兼平賢治
- 【ラム2】山林原野の明治維新と御猟場◎江藤彰彦

第2部 鷹と人との関係史

- 第4章 鷹の種類と調教◎福田千鶴
- 【ラム3】琉球の鷹狩儀礼と生態系◎武井弘一
- 第5章 鷹狩をめぐる江戸時代のツルの「保護」と人との関わり◎久井貴世
- 第6章 琵琶湖の水鳥狩と鷹場◎東 幸代
- 【ラム4】鳥取藩「湖山鴨堀」と周辺環境◎米見田博基
- 第7章 越後国村上藩主松平直矩の鷹と鷹狩◎渡部浩一
- 第8章 大洲藩の狩——御鷹野場と生業◎東 昇
- 第9章 尾張藩家臣の鷹場
- 【ラム5】「さだ六とシロ」の物語◎福田千鶴

第3部 日本列島における鷹の諸相

- 第10章 「御鷹」の献上・下賜◎越坂裕太
- 【ラム6】「御鷹」拝領と「御鷹」二而捉飼「鳥類の時献上」◎藤貫久美子
- 第11章 松前藩と鷹鳥屋場知行◎榎森 進
- 【ラム7】将軍の鷹と馬◎兼平賢治
- 第12章 盛岡藩の鷹と鷹鷹の捕獲◎中野渡一耕
- 【ラム8】参勤交代にみる鷹の役割◎米見田博基
- 第13章 南九州における鷹巣山について——米良山を中心に◎大賀郁夫

第4部 鷹狩文化を担った人々

- 第14章 鷹詞と有職故実◎大坪 舞
- 第15章 鷹狩の絵画——近世初期における鷹狩への眼差し◎水野裕史
- 第16章 銅鳥勝茂と鷹◎伊藤昭弘
- 第17章 鷹匠として生きる武士たち◎堀田幸義
- 【ラム9】江戸における鷹匠の交流◎岩淵令治
- 第18章 鷹書と出版文化◎藤貫久美子
- 【ラム10】越境する鷹狩文化
- 中央ユーラシアを駆ける鷹狩と鷹匠の世界◎相馬拓也

あとがき◎武井弘一
執筆者紹介◎掲載図版一覧◎鷹狩年表◎索引



書名	部数
<p>鷹狩の日本史 福田千鶴・武井弘一 [編]</p> <p>本体3,800円(+税) A5判・並製・カバー装・368頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22297-2 C1021</p>	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

日本語 文字論の

挑戦

表記・
文字・

文献を考えるための
17章



ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、
世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。
古来、日本人にとって「文字」は、
意思疎通のための情報ツールであると同時に、
彼我の文化に架橋するための媒体であった。
古代から現代までを視野に
「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、
日本語における「文字論」の豊富な世界を示す初めての一冊。

加藤重広・岡墻裕剛 〈編〉

かとう・しげひろ ●一九六
四年生まれ。北海道大学文
学研究院教授(言語科学研
究室)。専門は日本語学・言
語学。著書に『日本語統語特
性論』(北海道大学出版会、
二〇一三年)、『言語学講義』
(筑摩書房、二〇一九年)な
どがある。

おかがき・ひろたか ●一九
八〇年生まれ。神戸女子大
学文学部日本語日本文学科
准教授。専門は日本語学表
記・漢字。著書に『B・H・
チェンバレン』(文字のしる
べ)『影印・研究』(編著、勉誠
出版、二〇〇八年)などがあ
る。

もくじ

まえがき 〔岡墻裕剛〕

第1部：言葉はどう書くか

日本語の表記システムとその特徴

近・現代小説の片仮名の用法一斑

古代中国語における漢字の表語現象の諸相 〔松江崇〕

平安時代の真仮名「乾善彦」

第2部：文献をどう読むか

訓点研究「超」入門 〔小助川貞次〕

篆隸万象名義における漢文節の意味注記について 〔李媛〕

図書寮本『類聚名義抄』における掲出語と注文の対応について 〔申雄哲〕

辞書と文献の比較に基づく定訓論の再検討

——キリシタン版『落葉集』と『きやとべか』を中心として 〔白井純〕

明治期における基本漢字文献の諸相 〔岡墻裕剛〕

第3部：文字をどう学ぶか

『文選』の学習——訓点資料を通して見えてきたこと 〔渡辺さゆり〕

字ひの系譜とその豊饒——江戸寺子屋教科書往来物資料を中心に 〔萩原義雄〕

変体仮名を学ぶ小学生 〔岡田一祐〕

米国防海軍日本語学校の漢字教材『kanji book』 〔高田智和〕

第4部：文化をどう残すか

京都の「天橋立」を表す日本製漢字の展開と背景

——「邏」(邏)を中心に 〔笹原宏之〕

『蝦夷記』のアイヌ語申渡文における仮名の用法 〔佐藤知己〕

〔S仮名と〕Jap仮名をめぐるといづつかの問題 〔富山日出夫〕

漢字字体研究と日本古辞書データベースの構築 〔池田証壽〕

あとがき 〔加藤重広〕・執筆者一覧

定価七、七〇〇円(税込)

〔本体七〇〇〇円〕

A5判並製カバー装・四三三頁

二〇二一年三月刊行
ISBN978-4-585-38000-9 C3081

<p>書名</p> <p>日本語文字論の挑戦</p> <p>表記・文字・文献を考えるための17章</p> <p>加藤重広・岡墻裕剛 〈編〉</p>	<p>部数</p> <p>定価7,700円(税込)・本体7,000円</p> <p>A5判並製カバー装・432頁</p> <p>2021年4月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-38000-9 C3081</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

【オンデマンド
新版】

菅 豊・北條勝貴 [編]

パブリック・ヒストリー 入門 開かれた歴史学への挑戦

本体 四、八〇〇円 (+税)

A5判並製

カラー8頁+本文504頁

二〇二一年三月刊行

ISBN978-4-585-82254-7 C1021

「歴史」は、誰のものか――

人びとが語り、紡いできた歴史、そして、人びとが歴史とともに、歴史を糧に生きていくという行為に目を向け、学問と社会の対話を目指す「パブリック・ヒストリー」は、いま世界的な広がりを見せている学問分野である。歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える貴重な一冊。パブリックヒストリーを考えるための日本初の概説書！

【編者紹介】

菅 豊（すが ゆたか） 一九六三年生まれ。東京大学大学院情報学環・学際情報学府、東洋文化研究所教授。専門は民俗学。著書に『川は誰のものか――人と環境の民俗学』（吉川弘文館、二〇〇六年）、「人と動物の日本史3――動物と現代社会」（編著、吉川弘文館、二〇〇九年）、「新しい野の学問」の時代へ――知識生産と社会実践をつなぐために（岩波書店、二〇一三年）などがある。

北條勝貴（ほっしじょう かつたか） 一九七〇年生まれ。上智大学文学部教授。専門は東アジア環境文化史。著書に『環境と心性の文化史』上下（共編著、勉誠出版、二〇〇三年）、『寺院縁起の古層――注釈と研究』（共編著、法蔵館、二〇一五年）、「歴史を学ぶ人々のために――現在をどう生きるか」（共著、岩波書店、二〇一七年）などがある。

【目次】

I 理論 Theories

II 実践 Practices

歴史家とは誰か？
Who is the Historian?

協働

Collaboration

オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー
Oral History and Writing History

ミュージアムとアーカイブズ
Museums and Archives

デジタル・パブリック・ヒストリー
Digital Public History

アートと歴史映写
Art and Historiophony

【執筆者一覧】

- 菅豊 ● 北條勝貴 ● 中澤克昭 ● 俵木悟
- 西村明 ● 市川秀之 ● 及川祥平
- 宮内泰介 ● 加藤幸治 ● 加藤圭木
- 金子祥之 ● 石井弓 ● 金菱清 ● 川田牧人
- 西村慎太郎 ● 小山亮 ● 村上忠喜
- 後藤真 ● 渡邊英徳 ● 塚原伸治
- 飯田高誉 ● 青原さとし ● 今井友樹

書名	部数
パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 菅豊・北條勝貴 [編]	部
本体 4,800円 (+税)	
A5判並製・カラー8頁+本文504頁	
2021年3月刊行	
ISBN978-4-585-82254-7 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

パブリック・ヒストリー入門

開かれた歴史学への挑戦

◆おへん

口絵

菅 豊 ●序文 パブリック・ヒストリー——現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性

I 理論 Theories

菅 豊 ●パブリック・ヒストリーとはなにか？

北條勝貴 ●〈ありのままの事実を支えるもの——近代日本における歴史実践の多様性
中澤克昭 ●プラクティカル・パストと日本史——中世歴史実践史ノート

II 実践 Practices

《歴史家とは誰か？ Who is the Historian?》

俵木 悟 ●歴史と芸——神楽の過去を発掘する／演じるという歴史実践

西村 明 ●いまに生きる、いまに生かす歴史的空間における歴史実践
——「O-Tain 郷土誌家」を目指して

市川秀之 ●滋賀県下の字誌にみる歴史実践

及川祥平 ●〈コラム〉「武田家属将美名録」はなぜ配られたのか——ある末裔の歴史実践

《協働 Collaboration》

宮内泰介 ●「八重子の日記」をめぐる歴史実践

加藤幸治 ●更地と工事現場からの文化創造と歴史実践
——津波被災地における復興キュレーション

加藤圭木 ●朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働
——「韓国併合」100年をめぐる日韓の運動から

金子祥之 ●〈コラム〉「歴史」を回す——オビシャ行事とオニッキをめぐる歴史実践

《オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー

Oral History and Writing History》

石井 弓 ●戦争記憶をめぐる再帰的な歴史実践
——オーラル・ヒストリーによる他者理解と自己理解

金菱 清 ●オーラル・ヒストリーの敗北宣言——想像の死者へ向けた手紙

川田牧人 ●〈コラム〉「歴史」する聖地創出

《ミュージアムとアーカイブズ Museums and Archives》

西村慎太郎 ●歴史資料の保全と地域貢献

小山 亮 ●東京大空襲・戦災資料センターを拠点とした
「東方社コレクション」をめぐる活動——共同研究の進展と成果の公開

村上忠喜 ●〈コラム〉民俗文化財に対する内部者の目線と外部者の目線

《デジタル・パブリック・ヒストリー Digital Public History》

後藤 真 ●歴史のデータは誰のものか——Digital Historyがもたらす未来とは

渡邊英徳 ●「記憶の解凍」
——資料の「フロー」化とコミュニケーションの創発による記憶の継承

塚原伸治 ●〈コラム〉歴史を刻む音楽——ある祭り囃子の「成長」

《アートと歴史映画 Art and Historiophoty》

飯田高善 ●歴史・アーカイブズ・アートの連環
——青森EARTH(2012 超群島)／

青原さとし ●映像という歴史叙述
〈2013 すばらしい新世界——再魔術化するユートピア〉

今井友樹 ●〈コラム〉映像で文化を切り取る歴史実践の可能性と課題
——姫田忠義の映像製作

北條勝貴 ●パブリック・ヒストリアンへの道程——あとがきにかえて

中国史書入門 現代語訳 北齊書

〔監修〕 氣賀澤保規 …… 明治大学東アジア石刻文物研究所所長

池田恭哉 …… 京都大学文学部研究科准教授

岡部毅史 …… 大阪市立大学学術情報課職員

〔訳者〕 梶山智史 …… 明治大学・専修大学兼任講師

倉本尚徳 …… 京都大学人文科学研究所准教授

田熊敬之 …… 東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程

二十四史と呼ばれる中国歴代王朝史（正史）を、現代語訳で読む「中国史書入門」シリーズ。異民族が中原に進出し、群雄割拠した魏晋南北朝時代。有名な蘭陵王・高長恭が活躍した北齊の正史『北齊書』を現代語で読む。

本書の特色

- ◆ 原文と現代語訳が対照できる。
- ◆ 皇帝の本紀を全篇訳出。各列伝の抄訳。
- ◆ 『北齊書』や「東魏・北齊」を理解するコラム、地図や事表、系図などの資料を収録。

目次

はじめに

第一部 帝室の軌跡

第一章 帝紀

神武帝（上）、文襄帝、文宣帝、廢帝、孝昭帝、武成帝、後主、幼主

第二章 後宮伝

神武皇后、文襄元后、文宣皇后、孝昭元后、武成胡后、後主斛律后、胡后・穆后

第三章 諸王侯伝

高祖十一王、文襄六王

第二部 人臣の列伝

第四章 群臣伝

東魏・北齊の勳貴たち
寶泰、尉景、婁昭（兄子婁叡）、庫狄干（子庫狄士文、韓軌、潘樂、段榮（子段韶、段孝言）、斛律金（子斛律光、斛律羨）、孫騰、高隆之、司馬子如、賀拔允、蔡儁、韓賢、尉長命、王懷、劉貴、任延敬、莫多婁貫文、高市貴、薛孤延、張瓊（子張忻、張遵業）、斛律羌舉（子斛律孝卿、代人劉世清）、堯雄（弟堯賢、從父兄堯勝）、慕容紹宗、慕容儼

第五章 群臣伝

神武帝・文襄帝・文宣帝の謀臣・武将たち
高乾（弟高慎、高昂、高季式）、封隆之（子封子繪、從子封孝琬、封孝琰）、李元忠（子李孫、族弟李密、宗人李暉、族叔李景遠）、盧文偉（子盧恭道、孫盧詢祖、族人盧勇）、李義深（子李駒、族弟李正遷）、魏蘭根、崔悛（子崔瞻、族叔崔景鳳、族子崔肇華）、孫季、陳元康（子陳善藏、弟陳謙）、杜弼

第六章 群臣伝

東魏・北齊の文武百官たち
敬顯儁、破六韓常、元孝友、李渾（子李湛、弟李繪、族子李公謹）、崔暹、高德政、崔昂、王昕（弟王暉）、陸法和、王琳、徐之才（子徐林、徐同卿、徐之範）、楊愔（子楊暉、宋欽道、鄭願）、裴讓之（弟裴讓之、裴讓之）、邢邵、魏收、辛術、元文遙、趙彥深、崔季舒、祖珽、尉瑾、唐邕、白建、暴顯、皮景和、綦連猛、元景安、獨孤永業、陽斐、盧潛、崔劼、盧叔武、陽休之、袁聿修、李稚廉、封述、源彪

第七章 學術伝

儒林伝序、顔之推

第八章 外戚伝・方伎伝・恩倖伝

外戚序、婁叡、胡長仁（從祖兄胡長榮）、方伎序、由吾道榮、信都芳、宋景業、許遵、吳遵世、趙輔和、皇甫玉、解法選、魏寧、綦母懷文、張子信、馬嗣明、恩倖序、郭秀、和士開、穆提婆、高阿那肱、韓鳳、韓寶業・盧勒又・齊紹

コラム

「北齊書」編纂 ● 「鄴城・晉陽」兩都制 ● 北齊蘭陵王 ● 文林館「修文殿御覽」
侯景の乱 ● 北齊佛教 ● 西域胡人 ● 北齊・北周の關係

資料編（北齊版圖、事表、系図ほか）
おわりに

本体六、〇〇〇円（+税）
A5判並製カバー装・約六五〇頁
二〇二一年五月刊行
ISBN978-4-585-29612-6 C0398

書名	部数
中国史書入門 現代語訳 北齊書	部
氣賀澤保規〔監修〕 池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之〔訳〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

本体6,000円(+税)
A5判並製カバー装・約650頁
2021年5月刊行
ISBN978-4-585-29612-6 C0398

日本古文書学会編集

古文書研究

第91号

2021年6月

定価	4,180	円(税込)・本体3,800円
B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁		
ISBN978-4-585-32401-0 C3321		
2021年6月刊行		

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

- 醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成——報恩院隆源を通して—— …… 佐藤亜莉華
- 室町幕府における侍所・山城守護の管轄領域区分 …… 松井直人
- 任官料足請取状(「饗料腰差酒肴」請取状)の検討 …… 村上純一

特別寄稿 日唐の改元と大赦——水上雅晴編・高田宗平編集協力

- 『年号と東アジア——改元の思想と文化——』(八木書店、二〇一九年)に寄せて …… 金子修一

研究ノート 「忽那一族軍忠次第」の成立 …… 山内 讓

史料紹介 伝『大外記中原師生母記(播磨局記)』文禄四年別記 …… 遠藤珠紀

追悼文 鈴江英一先生の想い出 …… 丸島和洋

古文書めぐり 石水博物館の歴史資料 …… 桐田貴史

随筆 古典と公家文化——戦国期の公家日記に見る—— …… 湯川敏治

研究余滴 將軍足利義晴上臈一対局と京都 …… 木下昌規

書評と紹介

- 明治大学広開土王碑拓本刊行委員会編／吉村武彦・加藤友康・徐建新・吉田悦志
『明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本』 …… 荊木美行
- 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所編
『藤原宮木簡四』(奈良文化財研究所史料第九十一冊) …… 武井紀子
- 佐々木恵介著『日本古代の官司と政務』 …… 徳竹亜紀子
- 倉本一宏著『御堂関白記』の研究』 …… 近藤好和
- 工藤浩編『先代旧事本紀論——史書・神道書の成立と受容』 …… 松本郁代
- 近藤剛著『日本高麗関係史』 …… 高 銀美
- 矢田俊文編『戦国期文書論』 …… 黒嶋 敏
- 一柳廣孝著『怪異の表象空間 メディア・オカルト・サブカルチャー』 …… 田部井隼人
- 中元崇智著『明治期の立憲政治と政党——自由党系の国家構想と党史編纂——』 …… 福井 淳
- 稲岡勝著『明治出版史上の金港堂——社史のない出版社「史」の試み』 …… 佐々木千恵

日本古文書学会二〇二〇年度総会要旨

彙報

口絵解説 仙台藩土青田家文書 二十一通 …… 荒木和憲

英文レジュメ

書 名	部 数
古文書研究 第91号 日本古文書学会 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価4,180円(税込)・本体3,800円

B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁

2021年6月刊行

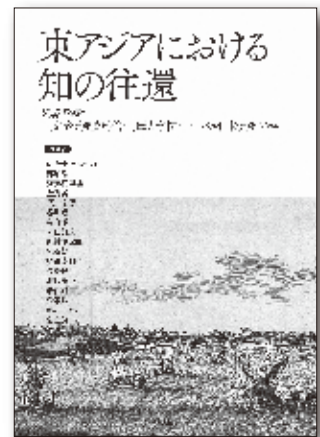
ISBN978-4-585-32401-0 C3321

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院

〔共編〕

東アジアにおける知の往還

〔アジア遊学255〕



東アジアにおける知の動態を明視する

気候危機にパンデミック、市民間の分断…。生命をも脅かす大きな困難が次々に起こる現代、我々はいかにして大量の情報を「個」として的確に受け止め、判断の材料に変換できるのか。そのための「知」を下支えするものの根拠を豊富な文献に求め、歴史的経緯を留めた表現の集合体から照射することで新規の問いかけに繋げる。文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

〔目次〕

序

刊行によせて●ロバートキャンベル

刊行によせて●鄭炳浩

本書の企画と構成●齋藤真麻理・金秀美

I 書物と文化

『栄花物語』と朝鮮王朝の宮廷文学

——『閑中録』との比較を中心として●桜井宏徳

遺稿集の季節——二十世紀前半の日本の言説編制●谷川恵一

近代日本の元寇図と『蒙古襲来絵詞』●金容澈

（コラム）絵画と文字の表現コード

——『源氏物語絵巻』を読み解く●金秀美

（コラム）奈良絵本と『徒然草』

——ジャンルを往還するメディア●齋藤真麻理

（コラム）正方形の本をめぐる●入口敦志

II 記録と記憶

日本と韓国の災難文学と記憶

——セウオル号沈没事件と東日本大震災の災難詩を中心として●鄭炳浩

近代福島県富岡町小良ヶ浜の文書管理——複合災害・縁故地・区有文書●西村慎太郎

（コラム）『三国遺事』を巡るいくつかの知見について●宋洗範

言語と滅刑——森鷗外『高瀬舟』において●野網摩利子

（コラム）在日朝鮮人「帰国事業」の記録と記憶の文学●金季杼

III 都市という舞台

江戸における巨大寺院の復興と講中——築地本願寺の場合●渡辺浩一

日本の伝統詩歌に描かれた大都會の風土●嚴仁卿

（コラム）『京城日報』と近代都市京城の表象

——横光利一の満鉄招請文学講演旅行と「天使」を中心に●金孝順

パリが主人公

——レティフとメルシエの作品とパリの文学的神話の誕生●ギョーム・カレ

（コラム）日韓の西洋探偵小説における都市表象

——エミール・ガボリオの『ルージュ事件』を中心に●倉在真

定価 3,080 円(税込) 本体 2,800 円
A5 判並製カバー装・200 頁
ISBN978-4-585-32501-7 C1395
2021年4月刊行

書名	東アジアにおける知の往還 〔アジア遊学No.243〕 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 〔共編〕	部数	部
ご送付先ご住所（通信欄）			

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

中世日本において寺院は、宗教的な施設のみならず、

貴顕や武士等、様々な人々が行き交う、

政治・経済・文化形成にも大きな影響を有した場であった。

しかし、諸寺院内部で伝持されてきた史料群は、

その特質からアクセスが容易ではなく、

編者らによる寺院史料の調査・研究の方法論の構築により、

近年、大きな研究の進展を見せるようになった。

畿内近国、関東に所在する諸寺院に伝来する

史料群の博搜により、寺内・寺外の僧俗の

社会的かつ宗教的な関わりをなかで、

「日本仏教」を形づくる多彩な仏法とその発展を実現した

寺院社会の構造と思想的背景を立体的に描き出し、

中世寺院の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

中世日本を読み解くための必読の書

【編者紹介】

永村 眞(ながむら まこと)

一九四八年生まれ。日本女子大学名誉教授、人間文化研究機構理事、東大寺学術顧問。専門は日本中世史・中世仏教史。
著書に『中世東大寺の組織と経営』(塙諸房、一九八九年)、『中世寺院史料論』(吉川弘文館、二〇〇〇年)、『中世醍醐寺の仏法と院家』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

【目次】

はしがき…永村 眞

I 醍醐寺の法流と修学

中世醍醐寺の顕・密「聖教」と法儀…永村 眞

南北朝内乱と清浄光院房玄…石田浩子

南北朝から室町前期における理性院流と

太元帥法別当職の相承

—理性院宗助と大覚寺證菩提院光覚の対立—…佐藤亜莉華

醍醐寺三宝院門跡満済の教学活動…姜 錫正

醍醐寺・根来寺と田舎本寺との僧僧交流

—尾張国万徳寺を通して—…藤井雅子

「義演准后日記」とその紙背文書…関口真規子

修法と秘号—五大虚空藏法を通して—…井上清子

醍醐寺所蔵「野月」と松橋流秘点…高橋恵美子

II 寺院の法会と社会

中世南都の法華会…高山有紀

「春日権現験記絵」の編纂者…坪内綾子

中世東寺の修学活動—西院と観智院—…西 弥生

十五世紀における北野社領西京と西京神人…三枝暁子

春日社神供備進と興福寺学侶…高山京子

室町將軍家の比丘尼御所と根本所領…小谷量子

III 中世の仏法と寺院

撰関期・院政期における聖徳太子信仰と女性

—四天王寺に集った女性たち—…榊原史子

鎌倉前期寺院社会の禪宗理解…矢野立子

中世「律院」と「結界」…飯田晶子

中世鑊阿寺の寺内組織…中田 愛

雑賀衆の戦いと鈴木孫一…三浦早織

あとがき…藤井雅子

定価 二二,二〇〇円(税込)
(本体二一,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・六四〇頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

部 数

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・640頁

2021年6月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

部

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

ご送付先ご住所(通信欄)

創られた 由緒 近世大和国諸社と 在地神道家

向村九音 著

さきむら・ちかね——奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程、満期退学。博士(文学)。
現在、日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世・近世の文学。主な論文に「大乘院寺社雑事記」
を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能」(『叙説』43、奈良女子大学日本アジア言語
文化学会、二〇一六年)、「今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関」(『説
話文学研究』55、説話文学会、二〇二〇年)などがある。

【目次】

- 第一章 今出河一友概説
第二章 今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関
第三章 「大三輪神三社鎮座次第」の成立と言説の共有
附論 「大乘院寺社雑事記」を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能
第四章 「大倭神社注進状並率川神社記附裏書」に見る大和国諸社の由緒再編
第五章 近世期六師神社における由緒生成と古伝の「再発見」
第六章 近世における石上神宮鎮魂祭儀礼次第生成の位相
結び
附表Ⅰ 今出河一友著作・書写本の一覧
附表Ⅱ 大阪府立中之島図書館石崎文庫所蔵大神宗次関連典籍の一覧
翻刻資料 國學院大学図書館所蔵『鎮魂祭略儀式』
参考文献一覧・あとがき・初出一覧・索引

「古え」は、 いかにして 語られたのか

近世中葉、幕府・藩の統制のもと社寺の秩序化が行われるようになる。社寺の復興、復権などを目的として「由緒」が希求されるようになった。それら「由緒」を説く任にあたったのは、神職や僧侶、そして神道家(神学者)であった。石上神宮・大神神社・大和神社といった山辺の古社をはじめとして大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝——「失われた古伝」、「俗説とは異なる真の伝」の創出を企図した彼は、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出したのか。また、その言説は、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのか。「古え」「淵源」を語る営みの意味を捉えかえす画期的著作。

定価 八、八〇〇円(税込)

【本体八、〇〇〇円】

A5判上製カバー装・二八八頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-31002-0 C3014

書名	部数
創られた由緒 近世大和国諸社と 在地神道家 向村九音(著)	定価8,800円(税込) 本体8,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-31002-0 C3014
ご送付先ご住所(通信欄)	

藤本幸夫

〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞、恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡（鑑）研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐる 本の文化史

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、全国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

定価一七、六〇〇円（税込）

（本体一六、〇〇〇円）

B5判上製カバー装・八九六頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-30002-1 C3000

執筆者一覽

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤至子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉朋彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	定価17,600円・本体16,000円 B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000
藤本幸夫 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文……………藤本幸夫

●第一部——書物のかたち・書物のジャンル

- 佐々木孝浩……………〈古写本〉日本の写本——装訂を中心として
柏崎順子……………〈江戸版〉初期出版界の様相
木村八重子……………〈草双紙〉「草双紙」の史的展望
棚橋正博……………〈黄表紙〉黄表紙
佐藤至子……………〈合巻〉合巻における自主規制
——「三国太郎再来伝」から「現世扶桑太郎」へ
鈴木圭一……………〈中本（人情本）〉中本二編三冊意識
石上阿希……………〈春画・艶本〉「書籍目録」にみる枕絵と好色本
大久保純一……………〈錦絵〉錦絵とは
湯浅淑子……………〈おもちゃ絵〉江戸のおもちゃ絵
鈴木俊幸……………〈草紙類〉上方の草紙類をめぐる
万波寿子……………〈仏書〉日本の仏書
鈴木達彦……………〈医書〉日本漢方の特質と日本医書

●第二部——印刷・活字・技術

- 住吉朋彦……………〈宋版・元版〉宋元版研究の道程
堀川貴司……………〈五山版〉五山版をどう考えるか
長澤孝三……………〈和刻本〉「和刻本」について
豊島正之……………〈キリシタン版〉キリシタン文獻
林進……………〈古活字版〉角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
高木浩明……………〈古活字版〉古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
森上修……………〈古活字版〉古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
小秋元段……………〈出版史料としての反古〉東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
渡辺守邦……………〈出版史料としての反古〉表紙裏反古・再考
橋口侯之介……………〈彫りと摺り〉彫師摺師から見た日本の出版形態
永井一彰……………〈版木〉板木の節

●第三部——本屋・商業出版・蔵書

- 鈴木俊幸……………〈日本近世の本屋〉本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
塩村耕……………〈日本近世前期の商業出版〉近世前期の出版界と西鶴
長友千代治……………〈貸本屋〉貸本屋の横顔
岡村敬二……………〈蔵書・蒐書（日本）〉蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
大沼晴暉……………〈蔵書・蒐書（日本）〉田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
大沼晴暉……………〈日中韓の商業出版〉日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
大木康……………〈中国の商業出版〉中国書肆史考——近世を中心に
大塚秀高……………〈中国の商業出版〉坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
金文京……………〈中国の商業出版〉明代建陽の商業出版と通俗小説
上原究一……………〈中国の商業出版〉明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
高橋智……………〈蔵書・蒐書（中国）〉中国の蔵書家について
藤本幸夫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮坊刻本攷
李胤錫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
全相豆……………〈朝鮮の商業出版〉坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき……………藤本幸夫
執筆者覧……………